

浜比嘉大橋



路線名	一般県道浜比嘉平安座線
規格	第3種3級
架橋位置	起点側：うるま市勝連浜（浜比嘉島）
	終点側：うるま市与那城平安座（平安座島）

橋種	航路部：PC3径間連続ラーメン箱桁橋 標準部：PC（10径間+7径間）連続箱桁橋
橋格	1等橋
橋長	900m
設計速度	50km/h
有効幅員	車道7.250+歩道2.50（m）
支間割	10@41.2+54.8+90.0+54.8+7@41.2（m）
平面線形	R=∞
架設工法	標準部：押し出し工法 航路部：張出し工法
クリアランス	W=75.0m H=13.7m（100t船舶対象）
設計荷重	TL-20
塩害区分	A-（I）
地質概要	地層は上部から沖積層、基盤層である島尻層群泥岩層・新里層の層序となっている 支持層はEL14m～23mに位置するN値40以上の新里層泥岩を支持層としている
事業費	約91億円

建設経緯

架橋前の浜比嘉島への交通手段は、「浜～屋慶名」航路の3往復、「比嘉～屋慶名」航路の2往復と個人による渡船であり、所要時間も30～40分程度の時間を要し、天候にも左右されるため生活の不便は尽きない状況であった。

昭和63年度に市町村道事業としてスタートした浜比嘉大橋は、昭和63年度～平成2年度の3年間は調査業務を中心に旧勝連町（現うるま市）で進められ、平成3年度からは一般県道浜比嘉平安座線として県道に昇格し、県道事業として実施され、平成4年度に橋梁部を着工し、平成8年度に完成、開通した。

年月日	事項
昭和49年2月	浜比嘉島・平安座島の架橋促進について県知事へ要請
昭和52年3月	沖縄県土木建築部道路建設課にて「浜比嘉架橋予備調査報告書」
昭和54年～	沖縄県土木建築部道路建設課にて「浜比嘉架橋環境影響評価書」
昭和55年	
昭和55年6月	町にて「浜比嘉島振興開発計画」を策定し、県へ直接陳情
昭和57年2月	沖縄県離島振興協議会へ「浜比嘉架橋、早期実施に関する要望書」を提出
昭和59年3月	県議会第2回定例会において陳情第20号浜比嘉架橋の実現に関する陳情を採択
昭和60年2月	沖縄開発庁へ浜比嘉架橋建設などについて要請
昭和61年5月	沖縄開発庁振興局の総務課長補佐が浜比嘉島及び、津堅島視察
昭和62年7月	沖縄県知事から国へ架橋の新規要望
昭和62年9月	沖縄開発庁事務次官が浜比嘉島視察、同時に昭和63年度から事業着手できるように要請文を提出
昭和62年12月	浜比嘉大橋が昭和63年度の新規事業として認められる
昭和63年9月	委員会を開催し、架橋ルート、橋長、クリアランス幅員構成などの基本条件整備、及び取付道路の実施設計を行う
平成元年2月	町道6の7号線（浜比嘉大橋取付道路工事消波ブロック製作に着手）
平成3年3月	浜比嘉大橋取付道路用消波ブロック製作工事 取付道路に関する埋立免許取得 県道浜比嘉平安座線認定告知 県道事業として着手（橋梁詳細設計）
平成3年6月	浜比嘉側取付道路工事に着手
平成4年3月	仮棧橋、下部工工事に着手
平成4年9月	起工式
平成4年10月	平安座側取付道路、下部工工事着手
平成4年12月	修景設計及び検討委員会開催
平成5年12月	上部工工事着手
平成6年3月	浜側上部工押し出し開始
平成6年7月	全ての基礎杭打設完了
平成6年10月	下部工完成
平成7年8月	上部工連結
平成7年9月	橋面工事着手
平成7年11月	マイロード事業認定
平成8年1月	橋詰広場埋立免許取得
平成8年4月	橋詰広場埋立工事着手
平成8年11月	橋詰広場建築工事着手
平成9年2月7日	開通

浜比嘉島の概要

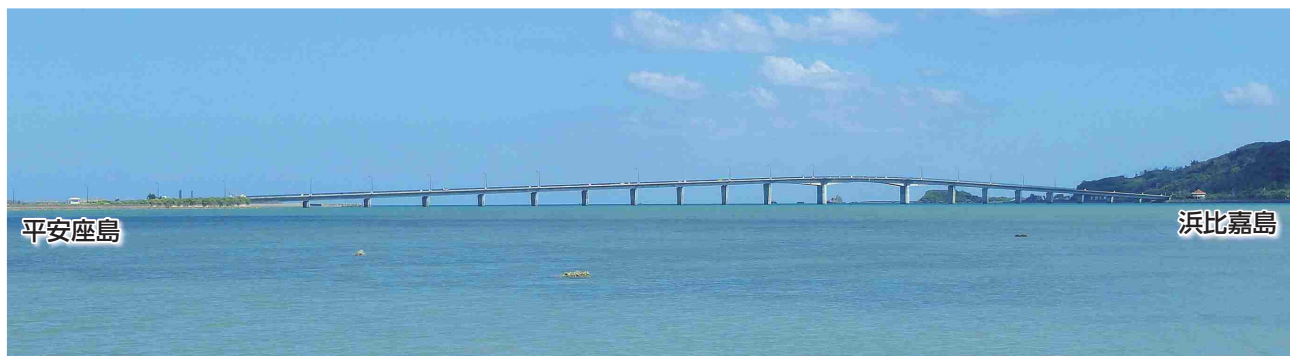
位置：勝連半島の東方約4km

人口：474人（平成28年）

世帯数：246戸（平成28年）

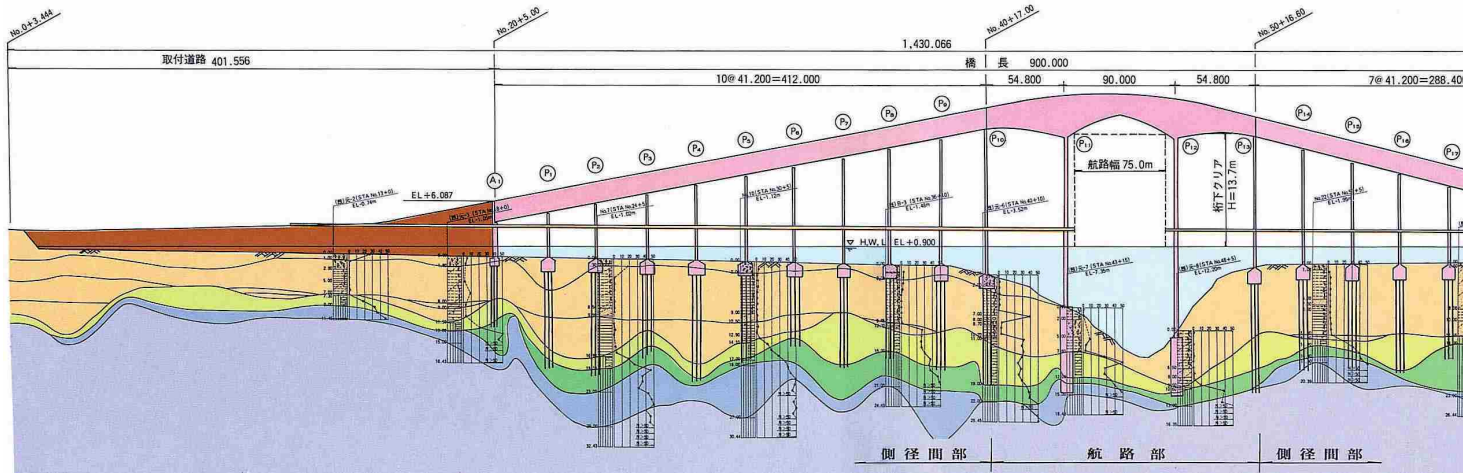
面積：2.09km²

西側に字浜集落、東側に字比嘉集落があり、2つを合わせて浜比嘉島と称する。琉球の最初の神、アマミキヨの伝説が伝わる島で、拝所や御嶽がいたる所に点在する。



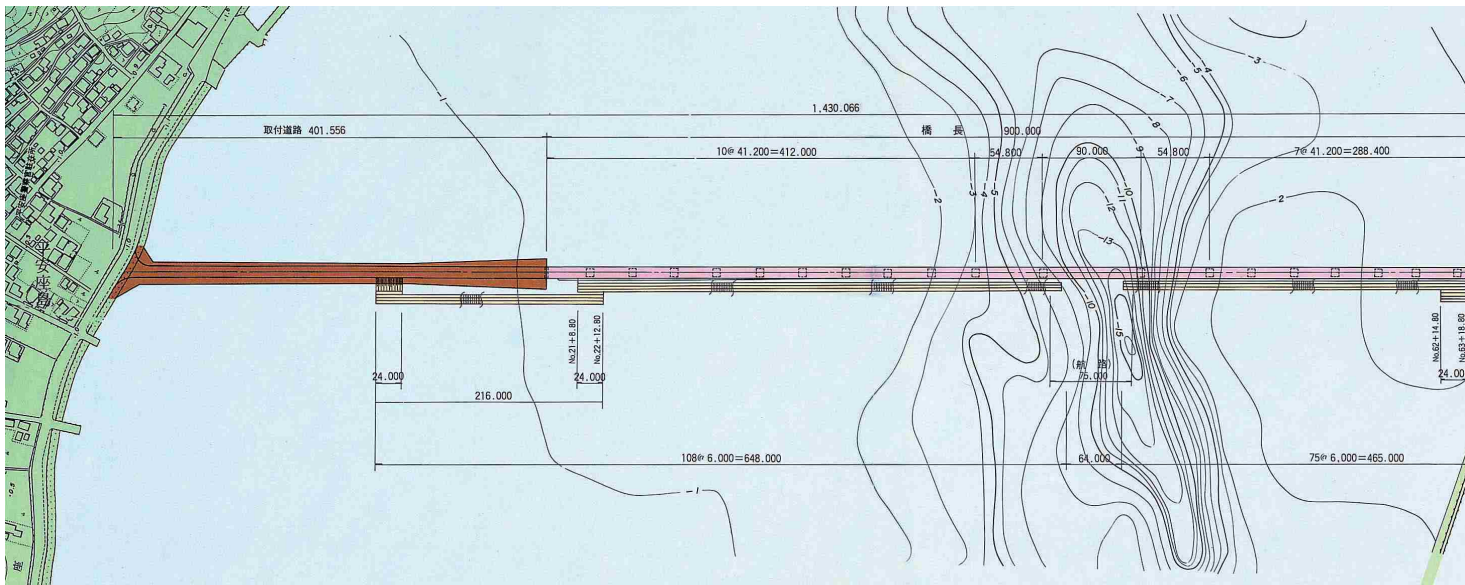
側面

計画一般図



平安座島

平面図

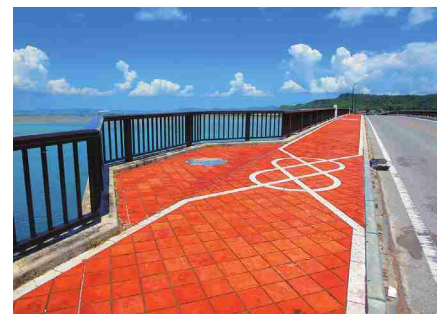


●構造形式

上部工形式	航路部：P10～P13 PC3径間連続ラーメン箱桁 標準部：A1～P10 PC10径間連続箱桁（平安座側） P13～A2 PC7径間連続箱桁（浜比嘉側）
下部工形式	逆T式橋台（A1、A2） 壁式橋脚（P2～P10、P13～P19） ラーメン橋脚（P11、P12）
基礎工形式	橋台、標準部橋脚 打込み鋼管杭基礎φ1000 （A1、A2、P2～P10、P13～P19） 航路部橋脚 鋼管矢板井筒基礎φ1000 （P11、P12）

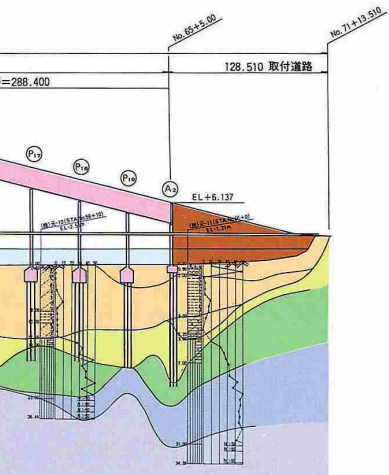


正面（平安座島から浜比嘉島向け）



バルコニー

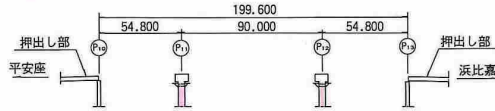
航路部(張出し架設工法) 上部工施工要領図



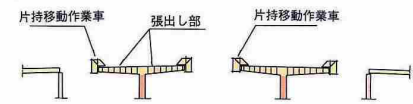
浜比嘉島



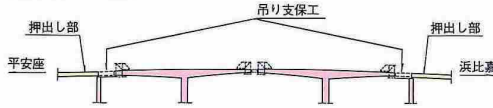
① 柱頭部の施工



② 張出部

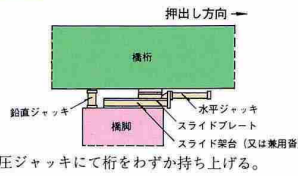


③ 側径間、閉合部施工



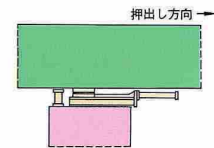
● 押し出し要領 側径間部施工要領図 (押し出し工法)

1



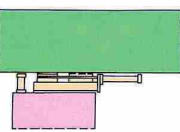
①鉛直油圧ジャッキにて桁をわずかに持ち上げる。

3



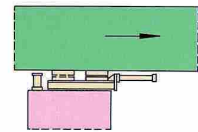
③鉛直油圧ジャッキの油圧を下げて桁をスライドプレートにおろす。

2



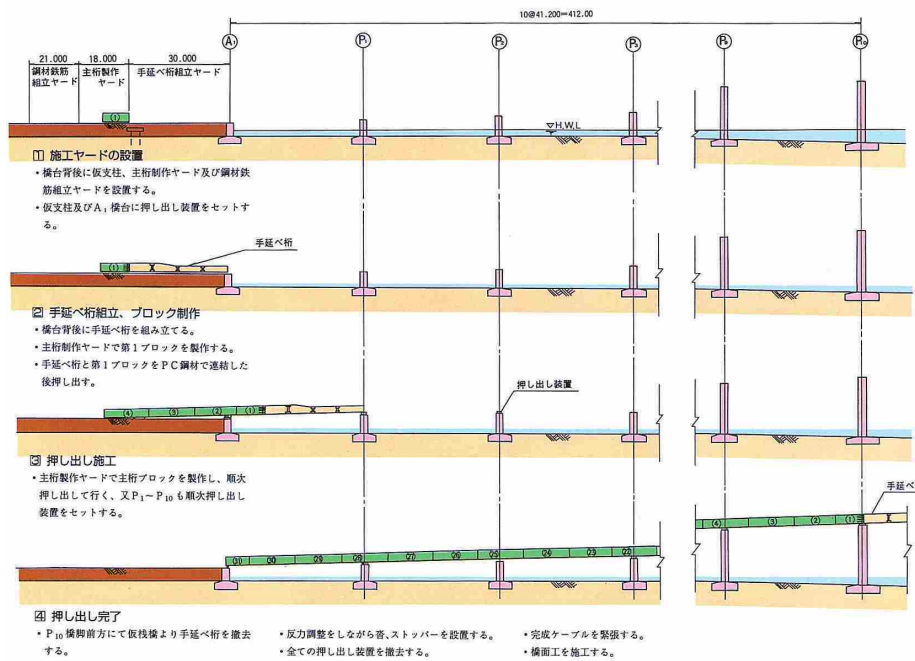
②スライドプレートを水平油圧ジャッキにて後方に移動する。

4

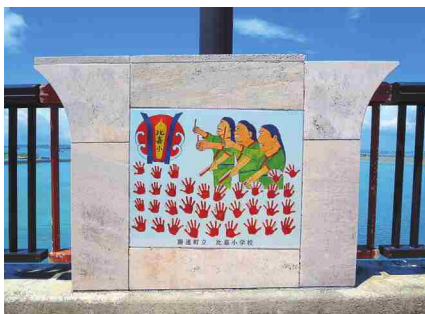


④水平油圧ジャッキの作用により、桁はスライドプレートとともにスライド架台上を滑って押し出されて行く。

施工要領図



親柱



中柱 (島の小学生のデザイン)

標準断面図

